



戦争について

思考すること



西谷 修
立教大学教員

今回のセミナーでは、集団的自衛権の閣議決定以降、合衆国の世界戦略の下に行われる「戦争」に日本が積極的に参加する危険性が現実味を帯びるなかで、『戦争論』（講談社学術文庫、1998年）を初めとして、9.11同時多発テロ以後の新しい戦争論に関する研究を数多く発表されてきた西谷修さん（立教大学教員、立憲デモクラシー呼びかけ人）をお迎えします。西谷さんの著作『戦争論』のつぎの言葉にあるように、わたしたちは今どのような時代に生きているのか、が問われています。今回のセミナーでは、日本の政治状況を超えて、世界化した戦争の時代に生きることを意味をも考えてみたいと思います。

「世界が〈戦争〉となって全体化したときから、戦争はもはや人間の知的考察の対象ではなくなってしまう。だから戦争をひとつの対象として、テーマとして語るのではなく、戦争が世界化したことと人間の存在の条件との関係がここでは問われることになる。つまり、われわれは今どういう時代を生きているのかということだ。ひとたび戦争が世界化し、世界が全体的現実になったときから、われわれはつねにすでに〈戦争〉のなかにいるのだから。」 [『戦争論』22-3頁]

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス（正義）という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： 12月23日(祝・火)

18:30-20:30

会場： 志高館 SK110教室

入場無料・申込不要

共催：京都96条の会

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科
Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp